

科目名		産業精神保健学特論	
科目責任者	江口 尚	(産業精神保健学 教授)	
担当者	井上 彰臣	(IR推進センター 准教授)	
担当者	真船 浩介	(産業精神保健学 講師)	
開講時期:	1年次後期	単位数:	4 単位
		時間数:	90分× 30 回
<p>● 科目の教育目標</p> <p>一般目標 (GIO)</p> <p>産産業精神保健の目的、諸概念、活動の現状や広がり、課題を理解し、それを実務に活かせる応用力を修得する。産業保健スタッフチームのリーダーとして、科学的根拠と現場の顕在的・潜在的ニーズ及び経済社会のマクロ環境の変化の影響、対応を踏まえた産業精神保健活動を計画し、実践する力を身につける。</p> <p>行動目標 (SBOs)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 産業精神保健の歴史を知り、それをもとにその現状と課題をとらえることができる。 2) 産業精神保健に係る事業者責任、労災認定の現状を理解する。 3) 産業精神保健に係る主な概念、理論を説明できる。 4) 産業精神保健の関連領域(学問)について、その概要を理解する。 5) 産業精神保健に関する事業場外機関の種類、特徴、役割について説明できる。 6) 職場の現状を踏まえた産業精神保健活動に関する計画立案のしかたを説明できる。 7) 労働者の精神健康度、職業性ストレスを評価する方法論を整理し、説明できる。 8) 労働者の精神健康度、職業性ストレスの調査結果の適切な分析方法を理解する。 9) 産業精神保健に係る職場環境の評価方法とその留意点を説明できる。 10) 産業精神保健に係る職場環境について、評価を踏まえた改善手順について具体的に説明できる。 11) 精神障害を有する労働者の職場復帰に関して、問題点と課題を説明できる。 12) 精神障害を有する労働者の職場復帰支援の方法論を詳細に説明できる。 13) 産業精神保健における労働者教育について、蓄積されてきたエビデンスとあり方を説明できる。 14) 産業精神保健における管理監督者教育について、蓄積されてきたエビデンスとあり方を説明できる。 15) 労働者の自殺に関する動向を知り、その対策のあり方を説明できる。 			
● 評価方法	講義中の討議への参加度30%、発表内容20%、課題レポート50%で総合評価する。		
● 参考文献	「産業精神保健ハンドブック」(中山書店)、「産業精神保健マニュアル」(中山書店)、「要説・産業精神保健」(診断と治療社)、「すぐに役立つ 職場のメンタルヘルスハンドブック」(診断と治療社)		

● 授業スケジュール

回	項目	内容	担当教員
1・2	産業精神保健の歴史Ⅰ	産業精神保健の歴史—黎明期から1990年代前半まで	江口 井上 真船
3・4	産業精神保健の歴史Ⅱ	産業精神保健の歴史—1990年代後半から現在まで	江口 井上 真船
5・6	精神障害の労災認定	精神障害の労災認定の考え方の変遷と現状	江口 井上 真船
7・8	産業精神保健と事業者責任	産業精神保健をめぐる裁判の動向と事業者 に求められる事項	江口 井上 真船
9・10	産業精神保健活動の実際Ⅰ	産業精神保健活動の中核部分	江口 井上 真船
11・12	産業精神保健活動の実際Ⅱ	産業精神保健における事業場内外の連携	江口 井上 真船
13・14	精神健康状態の評価Ⅰ	精神健康度、職業性ストレス等の測定に関する 方法論	江口 井上 真船
15・16	精神健康状態の評価Ⅱ	精神健康度、職業性ストレスの測定のツール 選択と留意点	江口 井上 真船
17・18	職場環境の評価と改善Ⅰ	精神保健に係る職場環境の評価の方法論	江口 井上 真船
19・20	職場環境の評価と改善Ⅱ	職場環境の評価結果を踏まえたその改善手 法	江口 井上 真船
21・22	職場復帰支援Ⅰ	精神障害者の職場復帰に関する問題点	江口 井上 真船
23・24	職場復帰支援Ⅱ	精神障害者の職場復帰支援の方法論	江口 井上 真船
25・26	教育研修Ⅰ(労働者)	セルフケアの推進を目的とした教育研修の 方法論	江口 井上 真船
27・28	教育研修Ⅱ(管理監督者)	ラインによるケアの推進を目的とした教育研 修の方法論	江口 井上 真船
29・30	産業精神保健と自殺予防	労働者の自殺予防活動と産業精神保健にお ける位置づけ	江口 井上 真船